

新規指定の国宝（建造物）

名 称	びわこそすいしせつ 琵琶湖疏水施設		棟 数	4 所、1 基
所 在 地	滋賀県大津市三井寺町、同園城寺町、同藤尾奥町、同稲葉台、 京都府京都市山科区四ノ宮小金塚、同御陵黒岩、同御陵封ジ山町、同日 ノ岡堤谷町、京都市左京区栗田口山下町、同南禅寺福地町、同南禅寺草 川町、京都市東山区東小物座町			
所 有 者	京都市			
指定基準	（一）重要文化財のうち極めて優秀で、かつ、文化史的意義の 特に深いもの			
建 物 名	員数	構 造 形 式		建 設 年 代
だいいちずいどう 第一隧道	1 所	煉瓦造隧道、堅坑 2 基及び翼壁附属		明治 23 年 (1890)
だいにずいどう 第二隧道	1 所	煉瓦造隧道、翼壁附属		明治 21 年 (1888)
だいさんずいどう 第三隧道	1 所	煉瓦造隧道、翼壁附属		明治 22 年 (1889)
インクライン	1 所	石造及び煉瓦造、煉瓦造カルバート含む		明治 22 年 (1889)
なんぜんじすいろかく 南禅寺水路閣	1 基	煉瓦造 14 連アーチ橋		明治 21 年 (1888)
[解説]				
一京都の近代化を象徴する、明治日本における都市基盤施設の金字塔ー				
琵琶湖から京都へ水を運ぶ長大な運河を構成する施設。煉瓦造の第一から第三隧道は、両 端に古典主義様式等の装飾を施した重厚な坑門を構え、伊藤博文、山縣有朋ら元勲が揮毫 した扁額を掲げる。特に第一隧道は我が国で初めて近代的な堅坑工法を導入し、長大な規模 を実現。インクラインは、上下船溜間の高低差約 36m を結び、舟運路の要となる、建設当 時最大規模の傾斜鉄路。南禅寺境内を横断する水路閣は、当時の国内最長を誇った威風堂々 たる煉瓦造 14 連アーチ水路橋。これらは西洋技術の習得過程にあった明治中期において、世 界的に高い評価を得た類い稀な建造物であり、明治日本における都市基盤施設の金字塔。ま た、風雅な園地群などに水を供給し、自然と人工、伝統と近代の景観が織りなす近代京都の 比類ない風致を育んだ琵琶湖疏水の代表遺構でもあり、深い文化史的意義が認められる。				

新規指定の重要文化財（建造物）

名 称	びわこそすいしせつ 琵琶湖疏水施設	棟 数	14 所、4 基、 4 棟
所 在 地	滋賀県大津市大門通、同三井寺町、同園城寺町、同藤尾奥町、同稲葉台、 京都府京都市山科区四ノ宮小金塚、同安朱中溝町、同安朱川向町、同御陵黒岩、同御陵封ジ山町、同御陵大岩、同日ノ岡堤谷町、同日ノ岡一切経谷町、同日ノ岡夷谷町、京都市左京区栗田口山下町、同栗田口鳥居町、同南禅寺福地町、同南禅寺草川町、同聖護院蓮華蔵町、同永観堂町、同若王子町、京都市東山区栗田口華頂町、同東小物座町、京都市伏見区深草直違橋北、同桃山町丹下、同深草墨染町		
所 有 者	京都市、関西電力株式会社、宗教法人真宗大谷派、個人		
指定基準	(二) 技術的に優秀なもの (三) 歴史的価値の高いもの		
建 物 名	員数	構 造 形 式	建 設 年 代
だいいちずいどう 第一隧道	1 所	煉瓦造隧道、竪坑 2 基及び翼壁附属	明治 23 年 (1890)
だいにずいどう 第二隧道	1 所	煉瓦造隧道、翼壁附属	明治 21 年 (1888)
だいさんずいどう 第三隧道	1 所	煉瓦造隧道、翼壁附属	明治 22 年 (1889)
あんしゅかわすいるきょう 安朱川水路橋	1 基	煉瓦造単アーチ橋	明治 23 年 (1890)
だいいちごうばし 第一〇号橋	1 基	鉄筋コンクリート造単径間橋	明治 37 年 (1904)
だいいちごうばし 第一一号橋	1 基	鉄筋コンクリート造単桁橋	明治 36 年 (1903)
インクライン	1 所	石造及び煉瓦造、煉瓦造カルバート含む	明治 22 年 (1889)
えびすがわこうもん 夷川閘門	1 所	石造及び煉瓦造閘門	明治 23 年 (1890)
なんぜんじすいろかく 南禅寺水路閣	1 基	煉瓦造 14 連アーチ橋	明治 21 年 (1888)
だいがうずいどう 第五隧道	1 所	煉瓦造隧道、翼壁附属	明治 23 年 (1890)

だいりくすいどう 第六隧道	1 所	煉瓦造隧道	明治 21 年 (1888)
ひのおかずいどう 日岡隧道	1 所	コンクリート造隧道	明治 45 年 (1912)
しんきゅうりょうすい 新旧 両水 れんらくあらいぜき 連絡洗堰	1 所	石造及びコンクリート造	明治 45 年 (1912)
ごうりゅうすいどう 合流隧道	1 所	煉瓦造隧道	明治 45 年 (1912)
けあげほうすいしょ 蹴上放水所	1 所	石造及びコンクリート造、放水路附属	明治 45 年 (1912)
ななせがわほうすいしょ 七瀬川放水所	1 所	煉瓦造、放水路付	明治 44 年 (1911)
けあげじょうすいじょう 蹴上浄水場 だいいちこうくはいすいち 第一高区配水池	1 所	煉瓦造	明治 45 年 (1912)
きゅうごしよすいどうだいにちやま 旧 御所水道大日山 すいげんちほんがしよ 水源地唧筒所	1 棟	煉瓦造、平屋建、地下 1 階、スレート 葺、一部銅板葺	明治 45 年 (1912)
けあげはつでんしよきゅうほんかん 蹴上発電所 旧 本館	1 棟	煉瓦造、平屋建地下 1 階、中 2 階付、 銅板葺、階段 2 所及び石造擁壁附属	明治 45 年 (1912)
えびすがわはつでんしよほんかん 夷川発電所本館	1 棟	煉瓦造、平屋建	大正 3 年 (1914)
ふしみはつでんしよほんかん 伏見発電所本館	1 棟	鉄筋コンクリート造、平屋建地下 1 階 一部 2 階建、門柱附属	大正 3 年 (1914)
ほんがんじすいどうすいげんち 本願寺水道水源池	1 所	石造、石造通路及び擁壁付	明治 27 年 (1894)

〔解説〕

一近代京都の形成に大きく寄与した長大な人工運河と関連施設一

琵琶湖の湖水を京都へ疏通する長大な人工運河とその関連施設。東海道と並行する第一疏水、南禅寺境内を横切り北上する疏水分線、濠川を経て淀川へ至る鴨川運河は、農商務省及び京都府が立案した計画に内務省土木局が手を加え、工事は田邊朔郎を中心に明治 23 年及び同 27 年に竣工。第一疏水を補う第二疏水は同 45 年の完成。舟運、灌漑、防火、発電、上水道等の都市近代化に係る多岐にわたる機能を集約した大規模な施設。特に新技術を積極的に導入し、建設当時我が国最長規模を誇った第一隧道すいどうは、近代トンネルの規範的存在。東京遷都後の京都の再興を支えた、京都の近代化を象徴する都市基盤施設。



国宝 琵琶湖疏水施設 南禅寺水路閣（京都市提供）



国宝 琵琶湖疏水施設 第一隧道（京都市提供）



国宝 琵琶湖疏水施設 インクライン（京都市提供）



重要文化財 琵琶湖疏水施設 蹴上発電所旧本館（京都市提供）